

学校統廃合と小中一貫教育問題

1月26日(木)19時～21時瀬戸蔵にて瀬戸市小中一貫校施設整備委員会(学識者、地元自治会長、学校長、PTA、公民館長、市教委など17人で構成)第4回目が開かれ、傍聴に行きました。そこで報告された保護者と教員へのアンケート結果より「小中一貫校の新設にあたり気になること」について。

保護者	項目	教員
1位(69.2%)	◎安全な通学路、通学距離や通学時間	1位(62.1%)
2位(35.7%)	環境変化に伴う子どもへの影響	5位(21.6%)
3位(31.5%)	○小中一貫教育における指導内容	2位(60.3%)
4位(27.1%)	小中一貫校に関する情報の不足	(19.8%)
5位(18.6%)	学校の跡地利用	(14.7%)
(14.9%)	地域と学校の連携が難しくなること	3位(30.2%)
(8.7%)	小中合同授業や合同行事	4位(26.7%)

保護者・教員ともに通学の安全性についてが1位です。とくに東公園への道がさみしいので不安だという意見も地域の方から出ていました。

Q (PTA) :瀬戸市は4・3・2制の一貫校で行くのか?

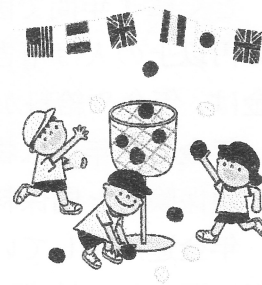
A (市教委):小学校6年・中学校3年で行くが、内容として4・3・2制。中学校の専科教員が小学校へも行く。校長は2人。職員室は小中一緒に。

→ 中学校の先生が行ったり来たりで大変。すでに行われている杉並区・品川区の現場でも「問題が起こっても次の授業に行くので対応ができなく、次の先生に丸なげ」とか。

7校が一緒になると教員の数が半分近く減ります。教育内容項目での保護者アンケートで1位の「一人ひとりの児童生徒に配慮した指導」ができるのかおおいに危惧されます。

木村光伸委員長は、「これは、一つのモデルであり、瀬戸市全体で小中一貫教育をしていく」と今回もまとめられました。瀬戸市全体としての問題なのです。まだまだ小中一貫教育については?部分が大きいです。まずは、地域の意見を十分にくみ取ることが大切です。

(文責 加藤 こけもも班)



シンポジウム 2月5日(日) 14:00～16:00 深川公民館